

ALON Dictaphone (ディクタフォン).....	1
取扱説明書 (v. 2.4.4).....	1
1. はじめに.....	1
2. インターフェイス概要.....	4
3. 録音.....	8
4. 編集モード.....	21
5. カテゴリ.....	27
6. ツール.....	28
7. プレイ状態.....	39
8. ブックマーク.....	42
9. iCloud.....	48
10. 拡張モード (詳細設定).....	50
11. ロック画面.....	51
12. Apple Watch.....	52
13. プロバージョンと無料バージョン.....	55
14. その他の機能ヒント.....	57
15. 未再生リストの表示.....	60
16. 音声モニタリング.....	65
17. VoiceOver.....	66

ALON Dictaphone (ディクタフォン)

取扱説明書 (v. 2.4.4)

ALON Dictaphone (ディクタフォン)をお選び頂き有難うございます!我々の商品をお気に召して頂き、有用にご利用頂けることを願っております。ALON Dictaphone (ディクタフォン)の品質向上のため、ご意見等ございましたら喜んで伺いたいと思います。我々のサポートチームsupport@alonsoftware.comまでご連絡下さい。

1. はじめに

ご注意: この取扱説明書は ALON Dictaphoneプロバージョンと無料バージョンに対応しております。無料バージョンでは、拡張機能をアプリ内課金で利用することができます。

・ オーディオメモを共有する

このオプションでは、Eメール、FTPサーバー、Dropbox、SoundCloud、GoogleDrive、OneDrive、Box、Evernote、WebDAV、SharePoint、YouTube、iCloud経由でオーディオファイルを共有す

ることができます。これにより、他のアプリケーションでオーディオファイルを開くことができるようになります。

- ・ 上級者オーディオパック

マイクの感度調整、サウンドアクティベーション（無音部分をスキップして、音が発生したら録音を開始する機能）、再生時の音量とバランス調整

- ・ 複数選択

複数のトラックを一度に消去、共有(FTP/Eメール/WiFi)、移動(カテゴリ間)できます。この機能によって、大量の録音トラックの管理がしやすくなります。

- ・ ブックマーク

再生中や録音時にタイムマーカーを配置できます。トラック内のブックマークされた箇所を任意の順番で再生することができます。

- ・ カテゴリ

この機能によって、録音トラックを簡単に整理することができます。例えば、「レクチャー」、「インタビュー」、「プライベート」、「学習」などのようにカテゴリを作成できます。必要であれば、トラックをカテゴリ間で移動できます。

- ・ 再生スピード 可変

トラック内で聞きたい位置を探すために再生速度を速くしたり、聞き取りづらい箇所をじっくりと聞くために再生速度を遅くしたりできる便利な機能です。選択可能な再生速度は(x0.5, x0.8, x1, x1.5, x2, x4)です。

- ・ 編集機能: 付加、上書き、トリム、切り取り、挿入、結合

この機能を利用して録音トラックの編集ができます。

- ・ 広告なし

広告がありません。

無料バージョンでは設定（ナビゲーションバーの左上のボタン）内のApp 内課金＞ 拡張から必要な拡張機能を購入できます。



プロバージョンには全ての拡張機能が含まれております。

ALON Dictaphone (ディクタフォン)ではmp3とwavオーディオ形式での録音が可能です。簡単にiPhone/iPad/iPodを高度なデジタルボイスレコーダーとして利用し、講義や会話、インタビューを録音し初め、録音した音声をSoundCloud、Dropbox、Google Drive、OneDrive、Box、Evernote、WebDAV、SharePoint、YouTube、FTPサーバに送信、またはiTunes やWiFiにてノートパソコンに直接コピーすることができます。また、音声記録をEメールで送信することもできます。

iCloudオプションにより、iOSデバイス間で録音ファイルの同期ができます。それに加えて、iCloud Driveに録音ファイルが保存されます。Dropboxの自動同期オプションは、録音ファイルをiOSデバイスとDropboxの間で自動で同期させます。

すべての音声記録はグループにて整理することができます。いつでも新しいグループの追加、録音記録の対応するグループへの転送、グループの除外が可能です。

どの録音トラックでも追加録音機能により録音を継続したり、録音トラックのどの部分でも簡単に上書きすることができます。

音声ディクテーションを改善するには、「音声モニタリング」オプションを使用できます。このオプションを使用することで、録音プロセス中にヘッドホンで自分の声を聞くことができます。これは、外国語や話すスキルを学ぶときに発音を修正するのに役立ちます。




録音中に「無音」に対してフィルタをかけることができます(サウンドアクティベーション)。

録音中にも再生中にも、ブックマーク(時間、画像、テキストメモ)を簡単に追加できます。

2. インターフェイス概要

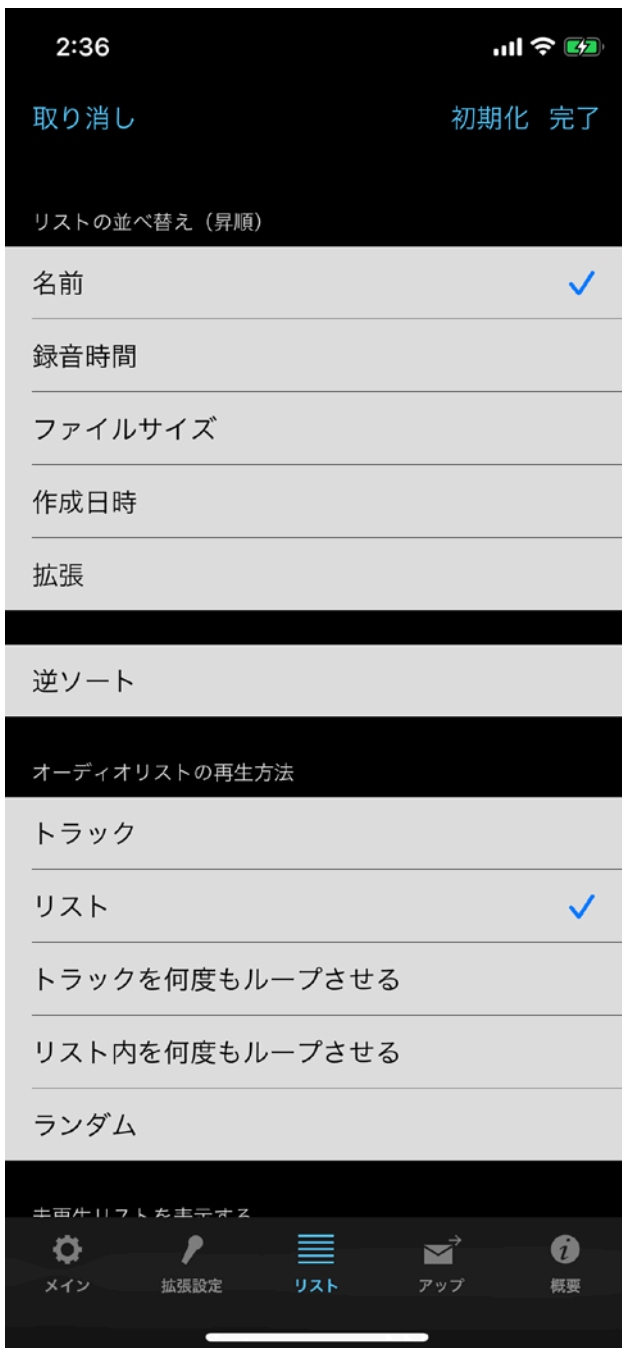
メインウィンドウはトップナビゲーションバー、トラックリスト(録音記録リスト)そしてメディアボタンによって構成されています。

トップナビゲーションバーはのボタンは以下の用途に利用します。(左から右へ)

1. 「設定」を開く。 (設定ボタン)
2. ツールバーを開く。 (ツールボタン)
3. 編集モードを開く。 (編集ボタン)
4. 現在のカテゴリを表示し、カテゴリウィンドウに移し、別のカテゴリを選べるようにする。

トラックリストはそれぞれのトラックのトラック名、時間、作成日、拡張子とサイズを示します。

これらの値のそれぞれにつき、トラックリストを整理するには “設定->リスト ->リスト並べ替え” を選択します。



また、録画リストを2本指で下にスワイプすると開く検索バーもある。検索が始まると、検索するための4つのタブが表示されます。4つ目のタブは、削除済みアイテム・ウィンドウのエントリー用で異なります。[ファイル拡張子]タブは録画のメインリスト用で、[カテゴリ]タブは削除された録画用です：



検索バーを閉じるには、2本指で録画リストを上にはスワイプする必要があります。

メディアボタンを使うとトラックリスト内の検索、選択したトラックのプレイバック、録音の作成ができます。「戻る/前へ」ボタンや「進む/次へ」ボタンにはアプリ内でいくつかの機能があります：

1. 「停止」状態（再生も録音もしていない状態）では、これらのボタンでページ単位でスクロールできます。
2. 「再生」状態では、「前へ/次へ」ボタンを押し続けて、早戻しや早送りができます。「前へ/次へ」ボタンを長押しすると、早戻しまたは早送りできて、その速度は録音ファイルサイズに応じて速くなります。
3. 設定で対応するオプションが設定されていれば、「再生/録音一時停止」状態で、ボタン

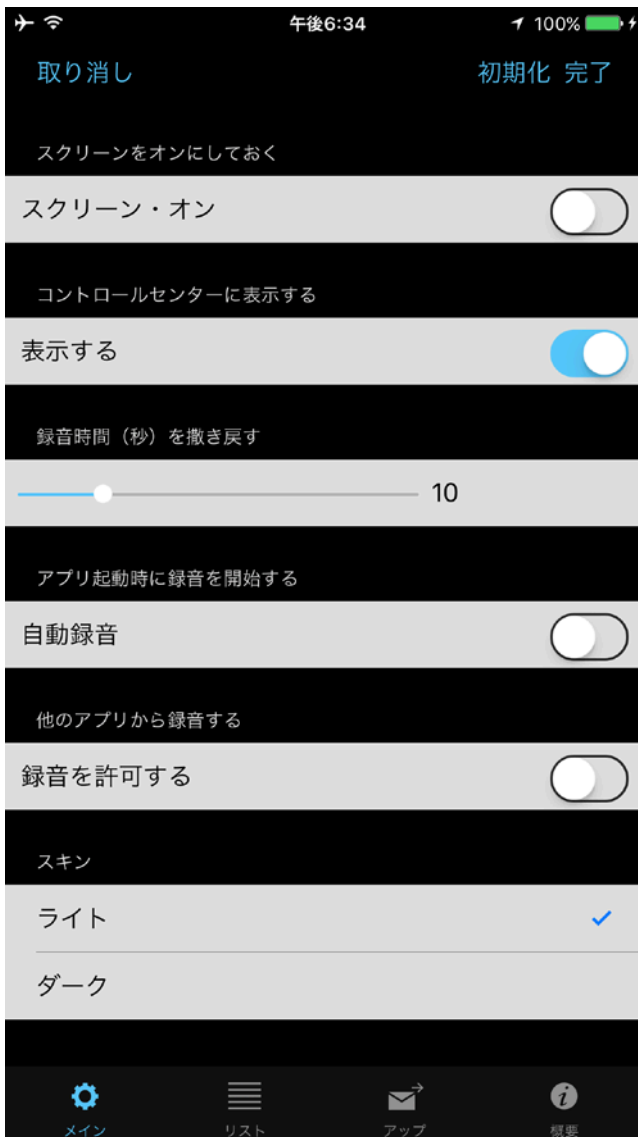
をタップするだけで、数秒間早送り/早戻しができます：



さらに、ウィンドウの下にある再生スライダーを使って「戻る/進む」ことができます。

それぞれの録音トラックの最後にはブックマークボタンがあります。ブックマークボタンを利用するとブックマークウィンドウを開き、ブックマークに関する作業を行うことができます。録音ファイルの下にある、3つのボタンのうちの1つを使って、ブックマークを追加できます。

設定からスキン（ライトまたはダーク）を選択して、アプリの表示を変更できます。：



3. 録音

録音のプロセスには3つ状態があります。1つ目の状態は、新しく録音を開始するためのものです。このボタンを押すたびに新しいトラックを作成します。録音は短いビープ音の後に始まります。ビープ音は「拡張モード」で無効にできます(下図参照)：

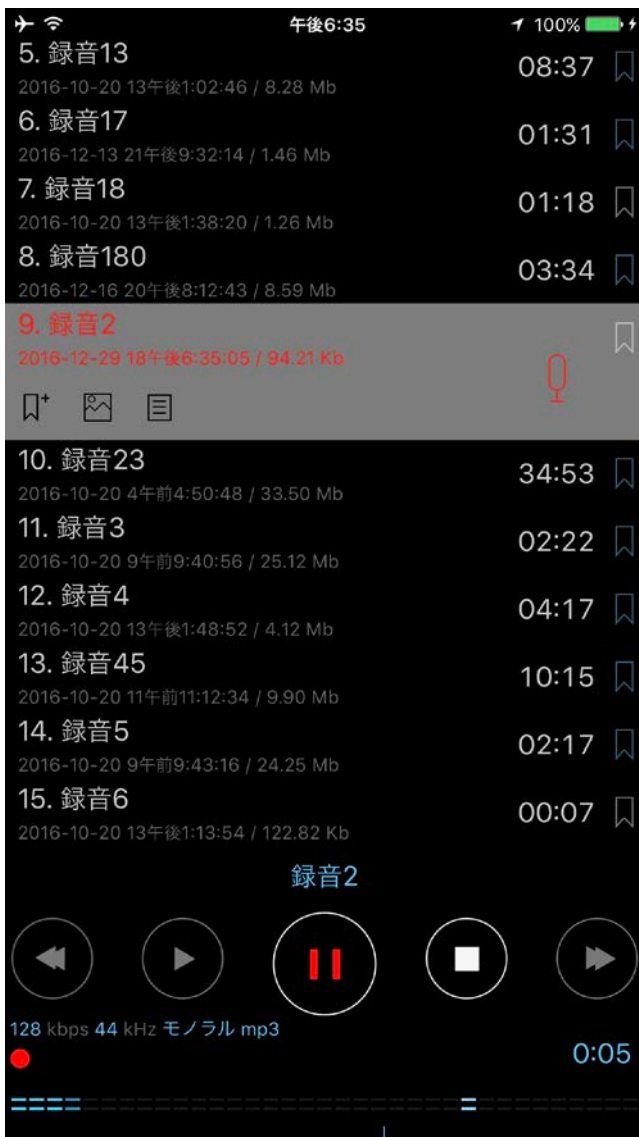
1. 設定(ナビゲーションバーの左上のボタン) > 拡張タブ(無料版の場合は「メイン > 拡張設定」) > 詳細設定を開く > 拡張モード > オン > 完了
2. 設定(ナビゲーションバーの左上のボタン) > メインタブ > 録音トーン > オフ



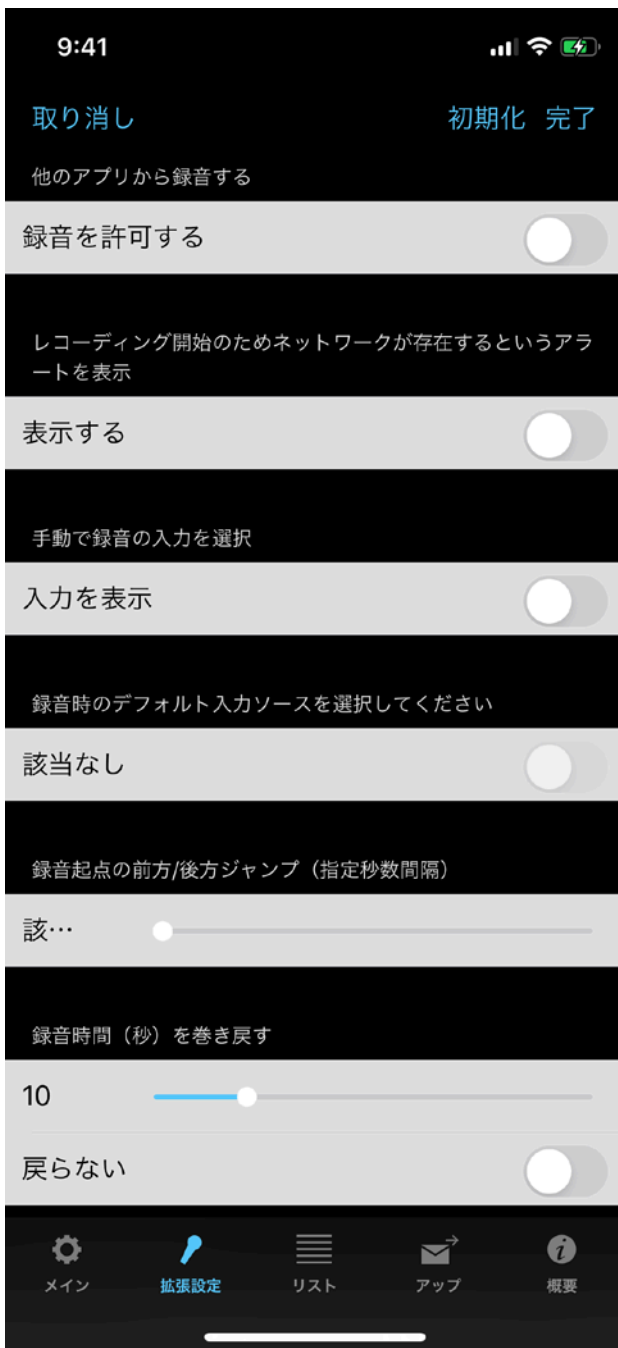
アプリのメインウィンドウ（録音や再生のような動作をしない状態）は以下の通りです：



録音の1つ目の状態は以下の通りです：



[この状態で、一時停止ボタンとウインドウの下にあるスライダーを使って、録音の最後の部分を手早く上書きできます] この状態で、画面一番下にあるスライダーまたは、停止中に次へ/前へボタンを使って、録音の最後の部分を手早く上書きできます。上書きをするために、録音の最後の部分を戻す時間の長さ(録音時間を戻す(秒))は、設定(ナビゲーションバーの左上のボタン) > 拡張設定 (無料版の場合は、「メイン > 拡張設定」) :



録音時間は5秒から30秒の間で戻すように設定できます。一時停止中に、録音の最後の部分を聞いて、どの部分から上書きをするかを正確に確認することができます。再生が終わると、スライダーは元の位置に自動的に戻ります。（自動で戻る機能は、アプリの設定で無効にすることができます：設定 > 拡張設定（無料版の場合は、「メイン > 拡張設定」）： > 録音時間（秒）を巻き戻す > 戻らない > ON）。

設定で「録音の早送り/巻き戻し」オプションが設定されている場合は、一度タップするだけで、数秒間巻き戻すことができます：



2つ目の状態は、録音中の無音をスキップするためのものです。機能を利用するには、“設定（ナビゲーションバーの左上のボタン）＞拡張設定（無料版の場合は、「メイン＞拡張設定」）＞詳細設定を開く＞無音時は録音しないの順で移動して、スイッチをオンにします。これによって、無音と見なされるほど小さな音はスキップされて、録音は一時停止されます。スライダーが左端にある場合は、ほぼ全ての音が無音とは見なさない状態に該当します（録音の1つ目の状態と同様です）。

そのウインドウは以下の通りです：



“ブックマーク待ち時間”では、スレッシュホールド録音モード時にアプリがブックマークを作成するまでに待機する時間の長さを設定できます。これらのブックマークによって、無音の時間を把握することができます。“ブックマーク待ち時間”は詳細設定から設定できます。(設定 > 拡張設定 (無料版の場合は、「メイン > 拡張設定」) > 詳細設定に移動>ブックマーク待ち時間)：



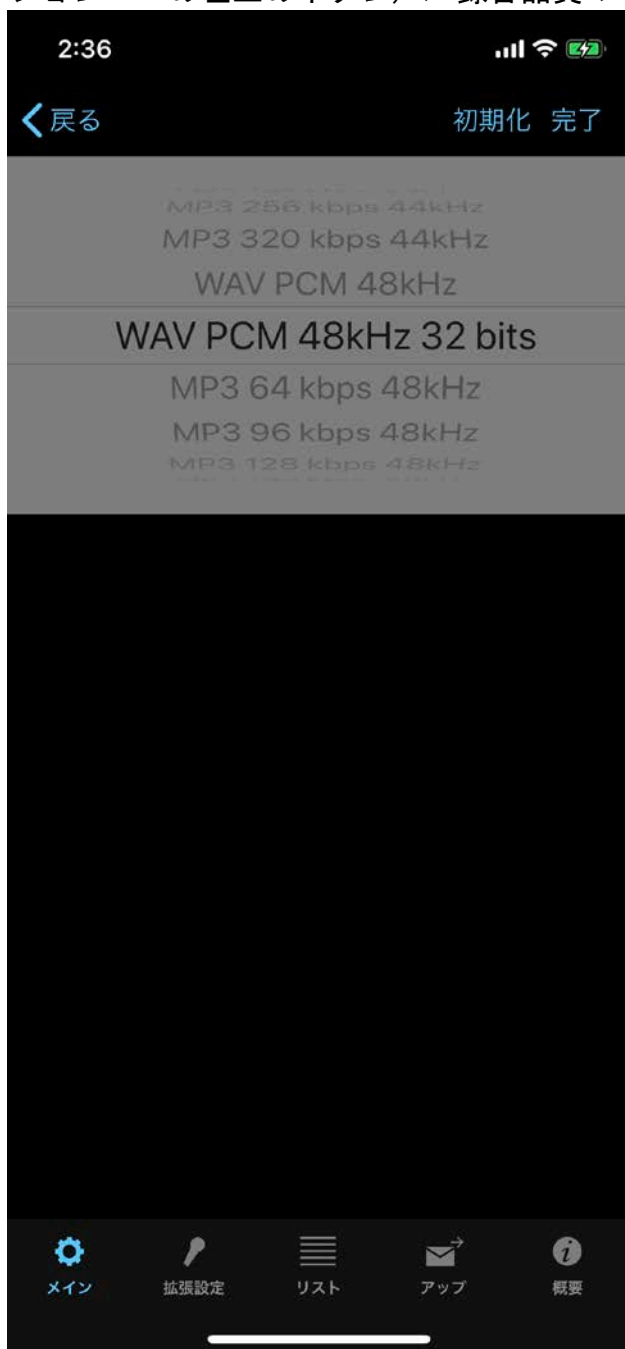
3つ目の状態（編集モード）はオーディオトラックを編集するのに使用します。次の操作が可能です：上書き、付加、挿入、トリム、切り取り。 ファイルを上書きする, 追加, インサージョン, トリムする, 切り取る. これらの操作の詳細な説明は編集モードのセクションで確認できます。

これらすべての録音の状態に対して、「設定 > 拡張設定（無料版の場合は、「メイン > 拡張設定）」 > 詳細設定に移動 > 録音ゲインレベル」から録音ゲインレベルを設定できます。“設定(ナビゲーションバーの左上のボタン) > メインタブ > 詳細設定を開く > 録音時のゲイン”このオプションによって、小さな音を大きくして録音できます。しかし、録音のノイズが増加してしまいます。スライダーの左端は、自動ゲインレベルに該当します。

注意：“無音時は録音しない”は“録音時のゲイン”に依存します。つまり、“無音時は録

音しない”を使っていて、“録音時のゲイン”を変更した場合は、“無音時は録音しない”を再び調整しなければなりません。

「詳細 > メインタブ > 詳細…」から録音のファイル形式を選択できます：“設定(ナビゲーションバーの左上のボタン) > 録音品質 > さらに…”：



「設定(ナビゲーションバーの左上のボタン) > 拡張設定 (無料版の場合は、「メイン > 拡張設定」) > 録音テンプレート」から録音テンプレートの変更ができます。

お使いのデバイスに適合する外部マイクを使ってステレオ録音ができます。いくつかの外部マイクのために、「処理中」オプションをオフにすることも可能です (設定(ナビゲーションバーの左上のボタン) > 拡張設定 (無料版の場合は、「メイン > 拡張設定」) > 詳細設定を開く > 処理中 > オフ)。

内蔵マイクにステレオ録音を使用することもできます (iOS/iPadOS 14 以降が必要です。すべての iOS/iPadOS デバイスがこのオプションをサポートしているわけではありません)。

お使いのデバイスがステレオ録音をサポートしているかどうかを確認するには、「(アプリの) 設定」を開いてください

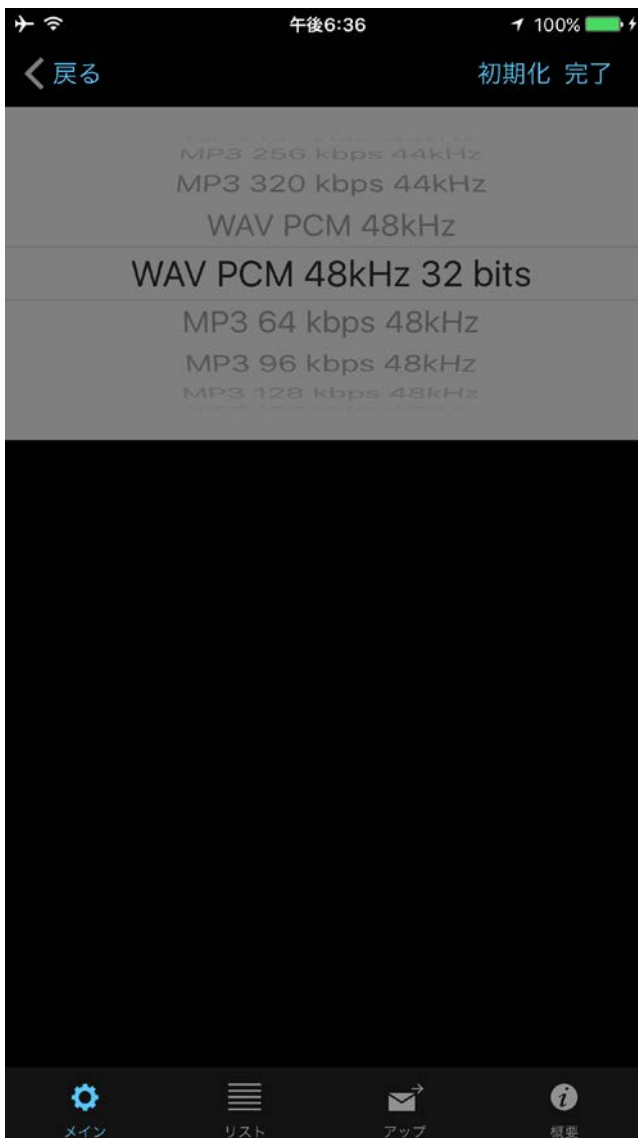
> 拡張設定". ウィンドウの下部に、"ステレオ" フィールドがあります。



「ステレオ」オプションをオンにする必要があります。
このフィールドがない場合、デバイスは内蔵マイクによるステレオ録音をサポートしていません。

注意: 現在のビットレートを保存するために、いくつかのmp3ステレオ形式のサンプルレートは、アプリケーションによって下げられる可能性があります (リサンプル)。

WAVオーディオ形式を32ビット深度で録音できます：



録音されたトラックの名前を自分で入力する必要がある場合には、以下のように「録音終了後のファイル名指定ダイアログ」をオンにします：



保存ウィンドウは以下の通りです：




録音を指定した時間で停止するために、タイマーを設定することができます。このオプションは、設定 > メイン > 録音停止タイマーで設定できます。

アプリが同時に複数のオーディオ入力を使用する場合（例：Air PodsとiOS端末の内蔵マイク）、録音ボタンを押すと、必要なマイクを手動で選択できます。この機能はアプリの設定で有効にできます：



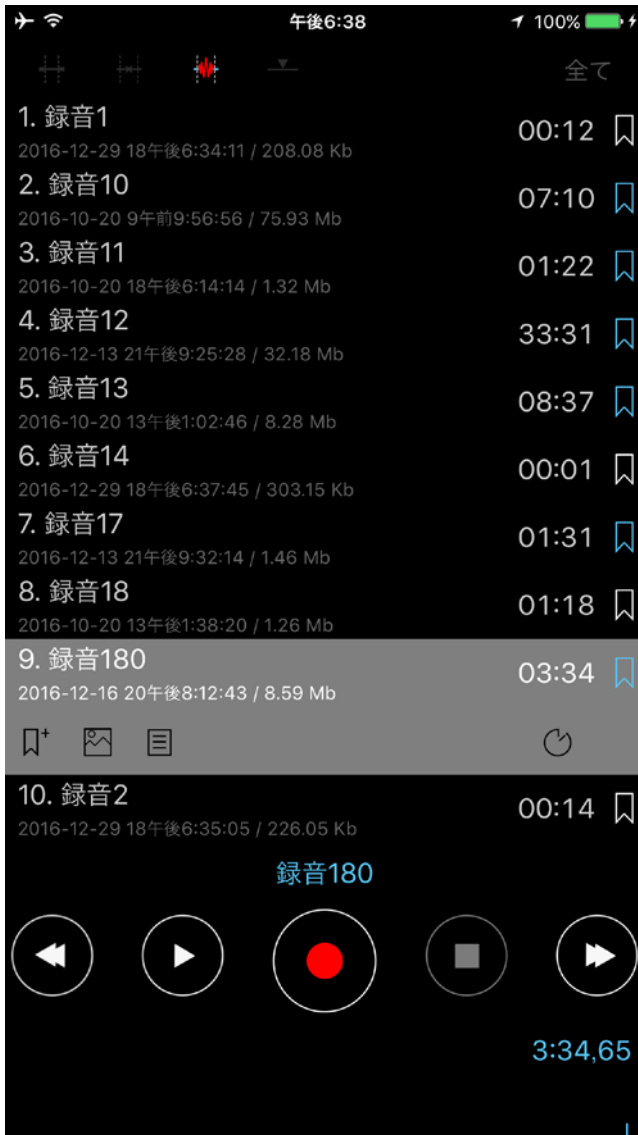
「録音するデフォルトの入力を選択」オプションで選択した場合は、アプリは優先するマイクの選択を記憶できます。

4. 編集モード

ナビゲーションバーの一番上にある編集ボタン  を押してこのモードを有効にします。編集モードでは次の操作が可能です：

1. 新しい録音を現在ある録音の最後に付加する。

2. 現在の録音を上書きする。
 3. 現在の録音に新しい録音を挿入する
 4. トリムをする
 5. 切り取りをする
- 編集モードのウインドウは以下のとおりです：



新しい録音を付加するには、録音ボタンを押します。
こちらから動画で確認できます：[録音を付加する](#)

オーディオトラックのある部分の上書きをする必要がある場合には、上書きする時間の位置を以下の写真のように選択します。



それから、録音ボタンを押します。こちらから動画で確認できます：[上書きをする](#)

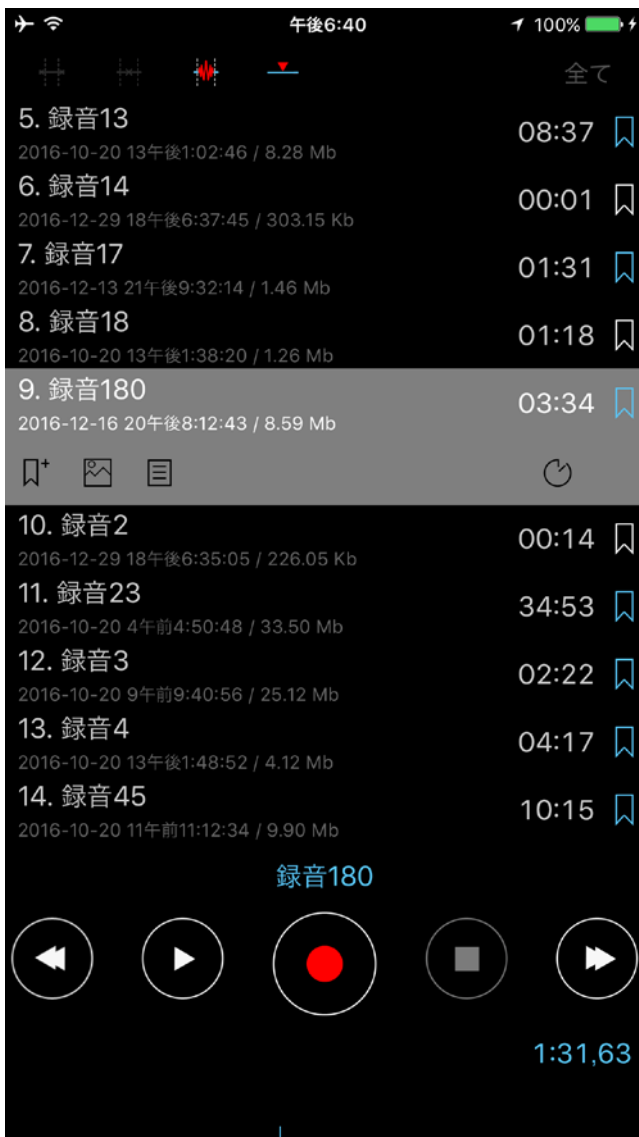
トリムしたい部分（トラックの赤い部分）を調整して、トラックの一部をトリムして新しいファイルとして作成します。それからナビゲーションバーの左上のボタンを押します（以下の写真をご参照ください）。こちらから動画で確認できます：[トリムをする](#)




トラックの一部を切り取って新しいファイルとして作成するには、切り取りたい部分（トラックの赤い部分は削除されます）を調整します。それからナビゲーションバーの上の2番目のボタンを押します（以下の写真をご参照ください）。こちらから動画で確認できます：[切り取りをする](#)



新しい録音を挿入するには、録音を挿入する時間の位置を以下のウィンドウのように設定します



注意： 挿入ボタン  を押すと、新しい録音が既存のファイルに挿入されるので、既存のファイルは修正されることとなります。元の録音ファイルは、「元の録音」というサUFFIXがファイル名に付加されてリストに残ります。こちらから動画で確認できます：[挿入する](#)

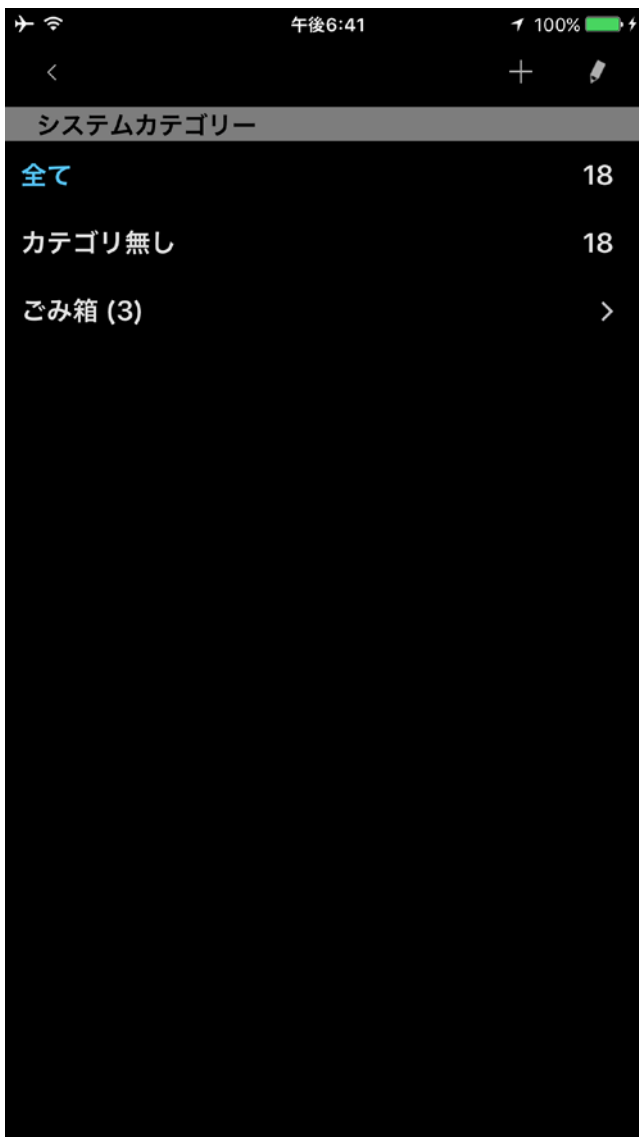
正確な位置でトリム、切り取り、挿入をするために、時刻（iPadの場合は編集時刻）をタップして次のウィンドウを表示します：



このウインドウでは、（もしあれば）ブックマークを選択して、手早く編集したい箇所（時間）を選択することもできます。

5. カテゴリ

カテゴリウインドウを表示するには右のトップナビゲーションボタンを押します。カテゴリウインドウは以下の様に表示されます。



このウィンドウでは、新しいカテゴリの追加、既存のカテゴリの編集や削除ができます。それぞれのカテゴリには登録トラック数が表示されます。変更不可なカテゴリが三つ存在します。

「全て」、「カテゴリ無し」、「ごみ箱」です。カテゴリを一回タップすると選択カテゴリに移ります。「ごみ箱」カテゴリの使い方は次のツールのセクションをご覧ください。「ごみ箱」カテゴリはプロバージョンまたは無料バージョン+ “カテゴリ” の拡張機能でのみご利用いただけます。

6. ツール

ツールボタンはツールバーを表示します()。ツールバーを利用して、トラックの削除、名前の変更、共有/送信、結合、移動ができます。それに加えて、他のアプリケーション内か

ら任意のトラックを開くことができます。ツールウィンドウは以下の様に表示されます。



ツールバーには6つのボタンがあります。(左から右へ)

1. 削除済みトラック

削除済みトラックは、カテゴリ >ごみ箱で管理できます。ここで削除済みトラックを元に戻す、または、デバイスから完全に消去することができます。



2. トラックの結合

結合したいトラックを選択する> ツールバーの結合ボタン（左から2番目）を押す> 初めに選択したトラックの末尾に結合するトラックを選択する> Ok. こちらから動画で確認できます：[トラックを結合する](#)

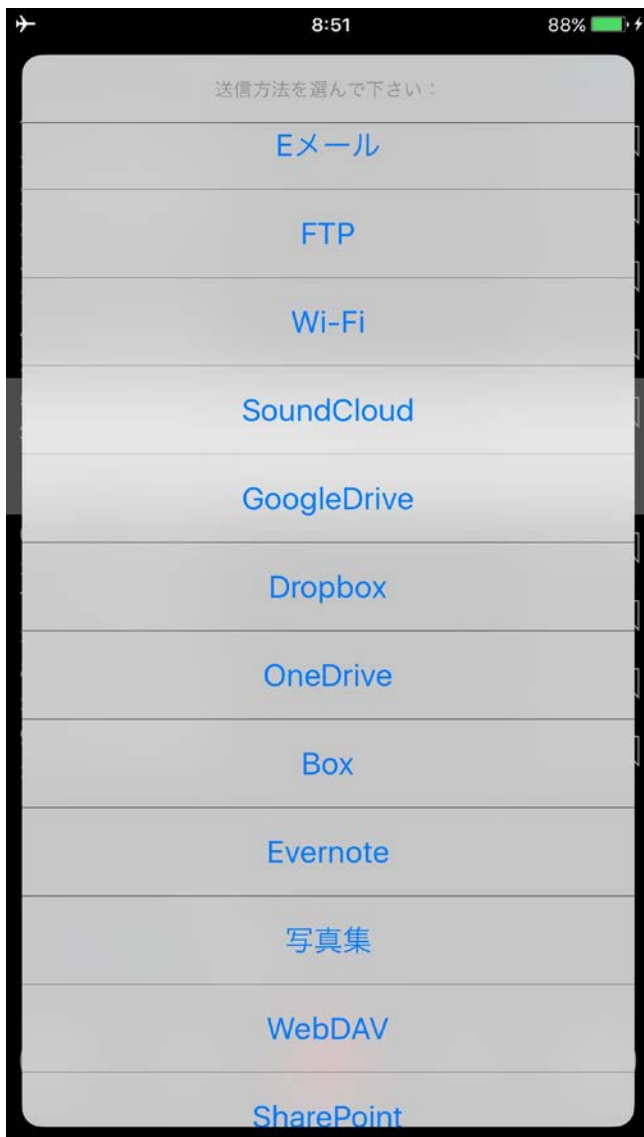
3. トラック名変更。

4. A. （トラックの共有/送信）

トラックをEメールで送信、Ftpサーバへ送信、SoundCloud/Dropbox/Google Drive/OneDrive/Box/Evernote/WebDAV/SharePoint/YouTubeへ送信、WiFiを利用してHTTPサーバへ送信してローカルストレージ（ノートパソコンなど）に保存します。

B. （トラックの送信）

他のアプリケーションでトラックを開きます（次の方法で開く…）。



希望する方法は「設定→アップ」から設定できます。この場合、プログラムはトラック送信のための方法を選択するように促すことをしません。

注意 1: トラックを送信を開始する前に対応する送信方法に必要な情報を設定します。「設定→アップ」から設定できます。

注意2: 録音ファイルは、ブックマークファイル（テキストメモや写真）と共にZipファイルとして送信できます。このオプションは、メールとGoogle Driveで利用できます。利用するには、これらの送信方法の設定内で、Zipオプションを有効にします。

送信先メールアドレスを3つまで指定できます。

送信トラックの大きさが「分割サイズ」を超える場合、トラックは部分ごとに送信されます。「分割サイズ」は「設定→アップ」で設定できます。

注意: 設定で「分割なし」を選択すると、どのトラックでもEメールに添付できる上に複数のレターを一度に送信できます。しかし、この場合全てのレターの大きさの合計、あ

るいは一つのレターの大きさがサーバに許容されるものより大きい場合には、エラーが発生する可能性があります。



FTPサーバへのアップロード

以下の項目を記入します。

1. サーバ名
2. ユーザ名
3. パスワード
4. ディレクトリ(任意)



“一を同期する。” オプションを選択すると全てのトラックはFTPサーバにて対応するカテゴリにデバイスと同じように保存されます。

iTunesから録音記録を取得する(Windows および Mac から Catalina macOS まで):

録音記録は「Documents」という名前の ALON Dictaphone (ディクタフォン)ディレクトリに保存されます([iTunesから録音記録を取得する](#))。iTunesからこのディレクトリに簡単にアクセスすることができます。

Mac または Windows パソコン上で iTunes を開きます。

iPhone、iPad、iPod touch を付属の USB ケーブルでコンピュータに接続します。

1. iTunes でデバイスをクリックします。デバイスが見つからない場合の対処法については、[こちらの記事](#)を参照してください。
2. 左側のサイドバーで「ファイル共有」をクリックします。

3. ALON Dictaphone (ディクタフォン) を選択.
4. 「書類」リストからファイルをドラッグし、コンピュータ上のフォルダまたはウインドウにドロップすると、それらのファイルがコンピュータにコピーされます。
コンピュータにコピーしたいファイルを「書類」リストで選択してから「保存先」をクリックし、そのファイルの保存先のフォルダをコンピュータ上で探してから、「保存先」をクリックする方法もあります。

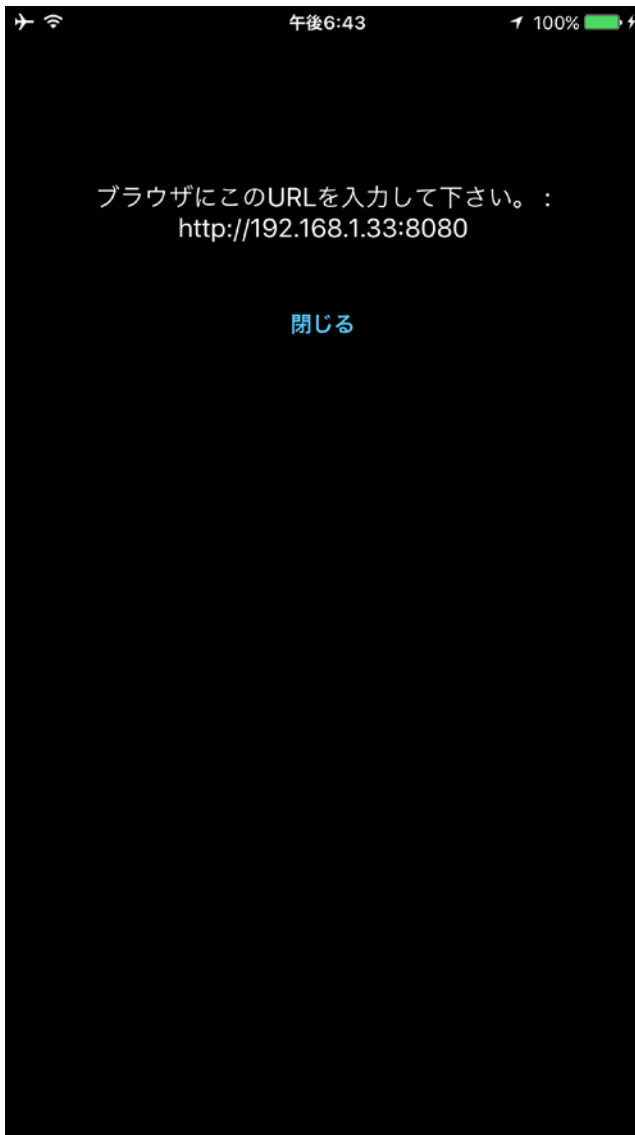
最新の macOS では、Finder アプリを直接使用できます。

<https://support.apple.com/ja-jp/HT210598>

注意 「設定」>「アップタブ」>「iCloud」で、iCloudを利用してない場合のみ、録音ファイルをiTunes経由で入手できます。

HTTP (WiFi) から録音記録を取得する:

この場合、ノートパソコンの利用するネットワークにWiFi接続する必要があります。
HTTP同期を選択した場合はURLをブラウザに入力します。URLは同期ウインドウに表示されます。



SoundCloudにアップロードする:

トラックをアップロードするには“SoundCloud設定”（“アップタブ”）にて許可を作成します。したがって、すでにSoundCloud アカウントを所持していることが前提となります。

“SoundCloud設定”内の“公共”スイッチを利用してトラックを公共、あるいはプライベートとしてアップロードできます。

Dropbox/Google Drive/OneDrive/Box/Evernote/WebDav/SharePoint/YouTubeにアップロードする:

トラックをアップロードするには「Dropbox/Google drive/OneDrive/Box/Evernote/WebDAV/SharePoint/YouTube設定」 “アップタブ”）にて許可を作成します。したがって、すでに Dropbox/Google

Drive/OneDrive/Box/Evernote/WebDAV/SharePoint/YouTubeアカウントを所持していることが前提となります。

Dropbox設定には自動同期オプションがあります（設定 > アップタブ）。このオプションによって、録音トラックを自動でドロップボックスに送ることができます。さらに、Dropbox側に、ルートフォルダ“ALON Dictaphone”（“ディクタフォン”）の下に任意のフォルダを作成してトラックの保存ができます。

もう1つのDropboxオプションは「自動アップロードおよび削除」です。Dropboxストレージにアップロードされたときに、アプリから自動的に録音を削除できます。

Dropboxストレージの任意の場所にアプリのルートフォルダを作成するには、[フルアクセス] オプションを選択してアプリをリロードする必要があります。その後、再認証します

SharePointの送信方法を使用するには、Azure Portal（クライアントIDを取得して、リダイレクトURLを作成する）にアプリ（ALON Dictaphone）の登録をして、自身のSharePointアカウントのグループを読み取る権限を付与する必要があります。クライアントIDとリダイレクトURLは、アプリのSharePoint設定の対応するフィールドに入力する必要があります。それから、アカウントのパスワードでログインして、SharePoint送信方法を使用開始できます：



フォトアルバムに保存する：

録音ファイルは、動画ファイルとして表示されます。

送信操作を停止するにはナビゲーションバーの「ツール」ボタンを選択し、ツールバー内の「送信停止」ボタンを押します。



5. 別のアプリケーションで開きます。

6. トラックを別カテゴリに移動する

注意：既にカテゴリ分けされているトラックがあるかもしれないので、「全て」カテゴリからはトラックの移動はできません。トラックを整理するには、「カテゴリ無し」を選択してください。

メインウィンドウから全ての操作にアクセスすることができます。環境メニューを表示するには表示したいトラックをクリックして押さえます。

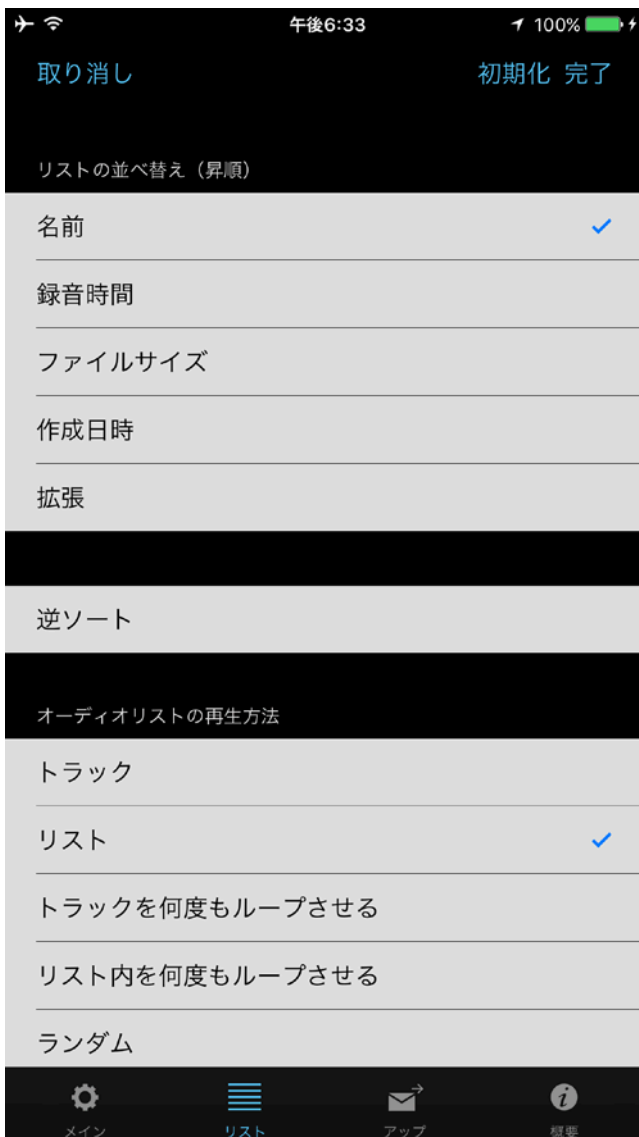


7. プレイ状態

「前へ/次へ」ボタンを押し続けると「早戻し/早送り」ができます。「前へ/次へ」ボタンを長押しすると、早戻しまたは早送りができて、その速度は録音ファイルサイズに応じて速くなります。さらに、ウインドウ下の再生スライダーを使って、「戻る/進む」の操作ができます。「前へ/次へ」ボタンをクリックすると、リスト内の「前の/次の」トラックを再生します。設定で「再生の早送り/巻き戻し」オプションが設定されている場合は、ボタンを一度タップするだけで、数秒間早戻し/巻き戻しすることができます：



トラックリストの再生方法は「設定->リスト ->リストの再生方法」から指定できます。
5つの位置があります。



1. トラック - 一つのトラックを再生して停止。
2. リスト- リストを再生して停止。
3. トラックループ- 一つのトラックを最後まで再生し、再び再生。
4. リストループ- リストを最後まで再生し、再び再生。
5. ランダム- 再生トラックをランダムに選択。

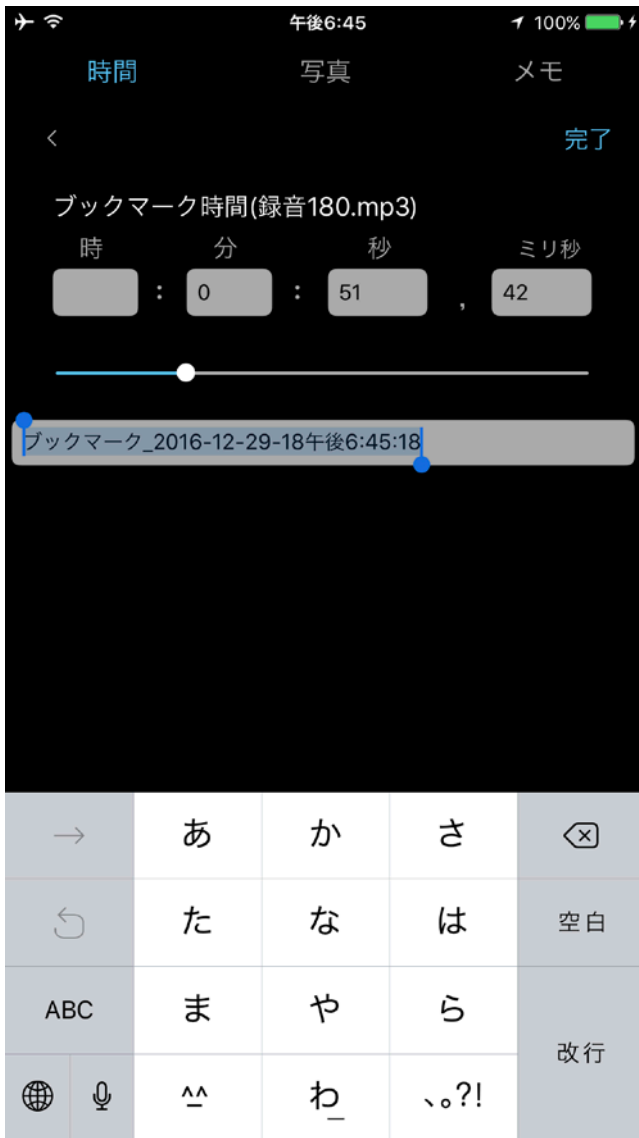
タイマー設定で再生時間も指定できます。この設定オプションを見つけるには、設定 > タイマー再生を停止するへ進んでください。

再生中に、再生速度ボタンで再生速度を変更できます：



8. ブックマーク

「停止・録音・再生」状態からトラックのブックマークをセットできます。「ブックマーク追加」ウィンドウは以下の様に表示されます。



ブックマークのあるトラックはメインリストに記されます。トラックのブックマークを選択すると以下のようなウィンドウが表示されます。

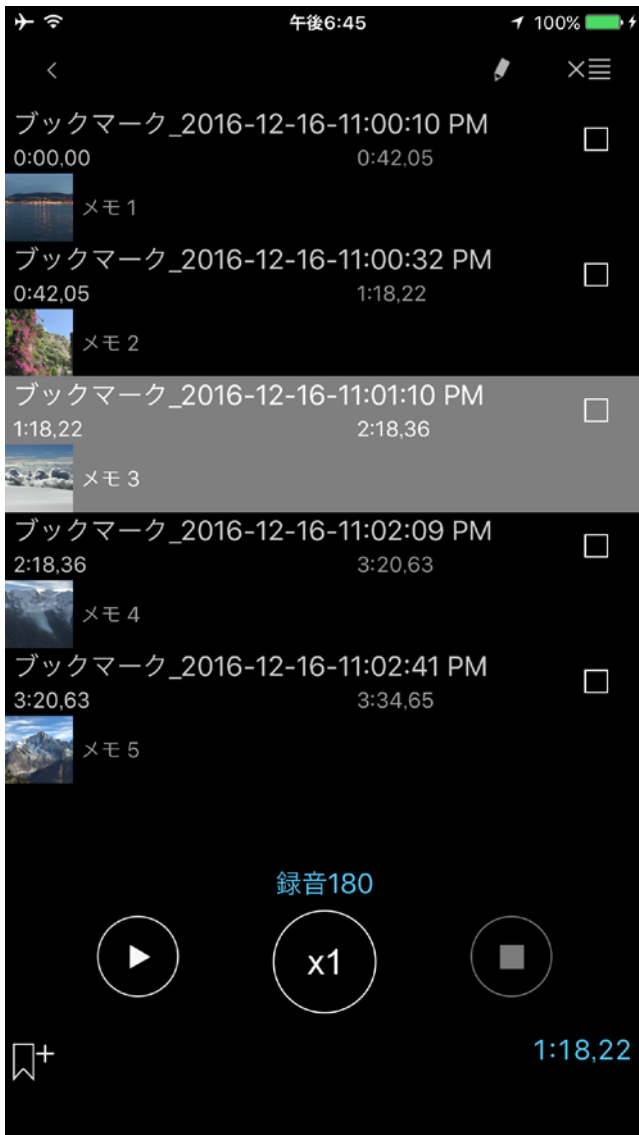


どのブックマークからでもプレイバックができます。あるいは、このウィンドウにてブックマークからのプレイバック経路を準備します。
このプレイバック経路は選択されたチェックボックスから構成されます。ブックマークの順番は任意に変更できます。

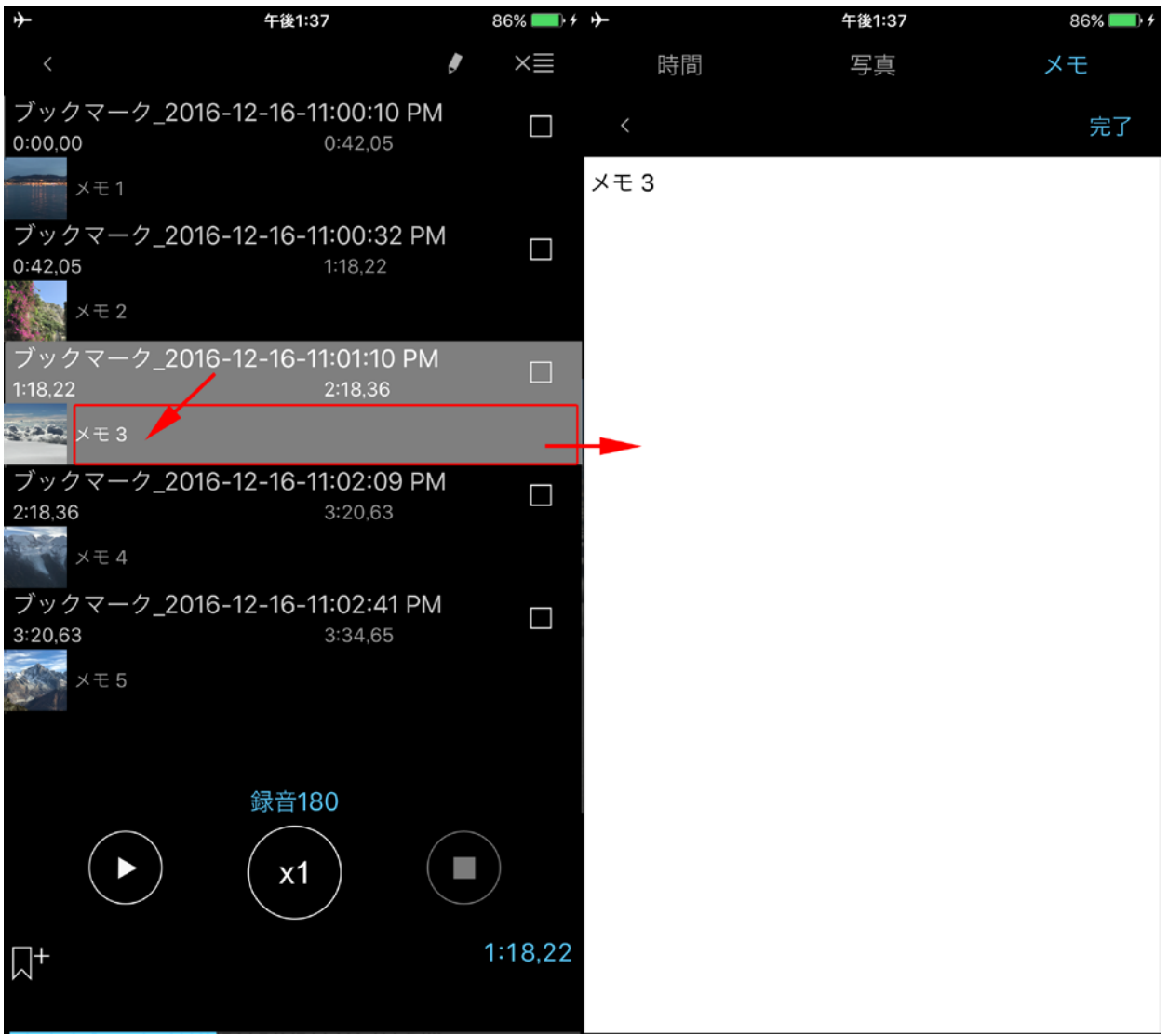


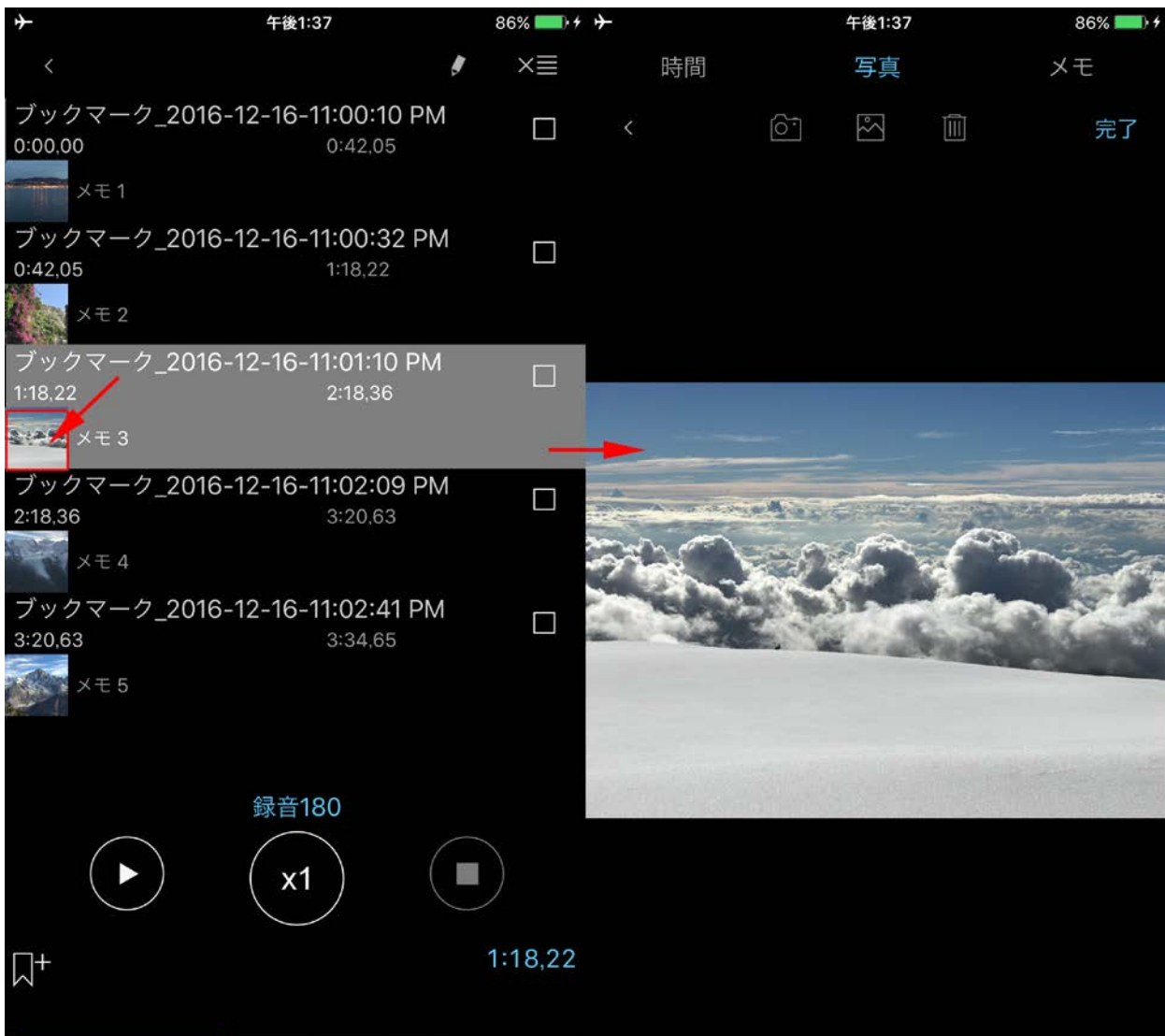
注意 録音の特定の箇所を繰り返すには、繰り返したい箇所をブックマークします。それから、ブックマークウィンドウに移動して、このブックマークのチェックボックスにチェックを入れます。そして、「再生」ボタンを押します。複数のブックマークが選択された場合は、全ての選択したブックマーク箇所を循環して再生します。

さらに、録音ファイルにある対応するボタン、もしくはブックマークウィンドウで、テキストや写真をブックマークに追加できます：



以下のスクリーンショットのように、ブックマークのテキストや写真をタップすれば、それを表示する画面に移行します：





9. iCloud

録音トラック、ブックマーク、お気に入りをiOSデバイス向けのiCloudと同期できます。Macでは、iCloudに保存されている録音トラックにFinderアプリからアクセスできます：
Finder > iCloud Drive > ALON Dictaphone (ディクタフォン)



このオプションが「オン」になっていると「リストタブ」や「アップタブ」等の設定はカテゴリと共にiCloud経由で同期されます。

注意 1 iCloudオフ状態で「アップ タブ」で設定をした場合、このオプションをオンにすると、現在の設定を上書きするか問われます。（iCloud「アップタブ」の設定とデバイス「アップタブ」の設定が異なる場合）。

注意 2 : iCloudにデバイスにはないカテゴリが複数存在する場合、「iCloud」オプションをオンにするとこれらのカテゴリがデバイスのカテゴリは除外せずに現在のカテゴリに追加されます。

注意 3 : 「メインタブ」設定はiCloud経由で同期されません。

注意 4 : 録音トラックを長期間利用しない場合は、そのトラックはメモリをクリアするためにご利用のデバイスから削除されることがあります（サイズの大きな録音トラックも同様）。しかし、メタデータ（ファイル名、オーディオ形式）は残るので、再びアプリを読み込んだと

きに録音トラックはiCloudサーバからダウンロードされます（インターネット接続が必要）。録音トラックのサイズと数によっては、ダウンロードに時間がかかるかもしれません。

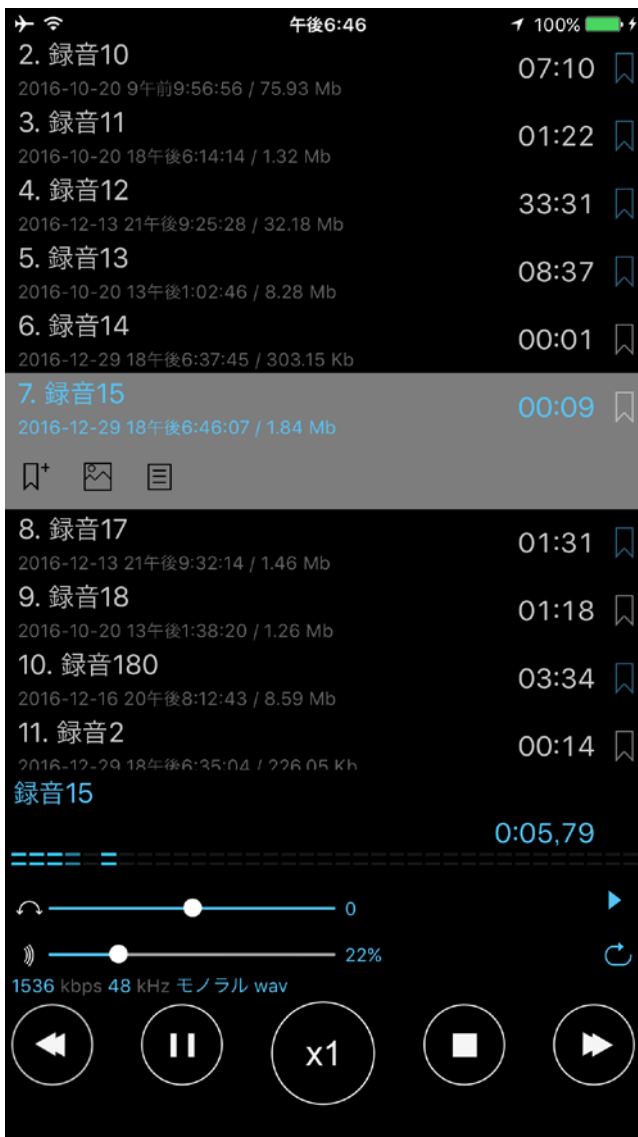
確実にダウンロードが始まるように、アプリを再起動してください：

- a. ホームボタンを2回押す
- b. アプリを上からスワイプして閉じる
- c. アプリを再起動する

10. 拡張モード（詳細設定）

ここでは、音声フォーマットや録音レベルや録音帯域などを思いのままに調節することができます。「拡張モード」をオンにすると、録音中に録音レベルと録音帯域が変更でき、同じく再生時には「音量」と「バランス」が利用可能になります。メイン画面はこちらの通り：





このオプションを有効にするために、メイン画面を開きます。（設定(ナビゲーションバーの左上のボタン) > 拡張設定（無料版の場合は、「メイン > 拡張設定」） > 詳細設定を開く > 拡張モード > オン）

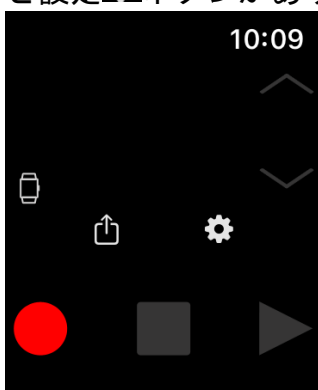
11. ロック画面

ロック画面のオプションは設定から利用できます（設定 > メインタブ > ロック画面）。このオプションにより、アプリを利用するためのパスワードを設定できます。簡易なパスワード（4桁の数字の）、もしくは任意のパスワード（任意の長さで文字と数字の組み合わせ）を設定できます。ご利用のデバイスでTouch ID を使っている場合は、Touch IDでアプリのロックを解除することもできます。



12. Apple Watch

Apple Watchは音声レコーダーやiPhoneのリモコンとして使用できます。以下は、ALON のディクタフォンを Apple Watch に使用する為の、解説です。アプリの画面には、送信[↑]ボタンと設定^{⚙️}ボタンがあります。



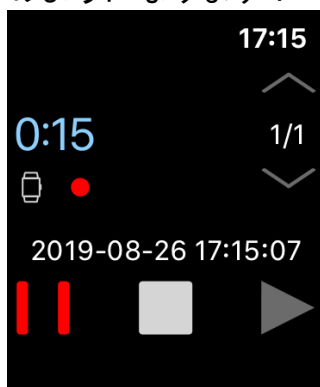
The Send button initiates the transfer of audio recordings from Apple Watch to your iPhone.

1. Apple Watchを使用して直接録音/再生する

Apple Watchで直接録音するには、アプリのメイン画面で時計アイコンを選択するか、設定画面で設定する必要があります：“設定 > ストレージ > Apple Watch > オン”



（このオプションはデフォルトで選択されており）、録音ボタンを押します。録音画面は次のようになります：



デフォルトでは、録音ファイルはApple WatchからiPhoneに自動的に転送されます。このオプションをオフにするには、次のように設定します：

設定 > 自動送信 > 自動 > オフ

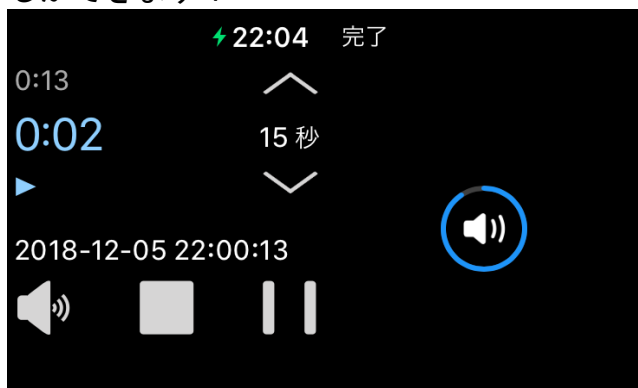
オフにすると、録音ファイルはすべてApple Watch内に入ったままになります。録音ファイル

を後でiPhoneへと転送するには、次のように設定します：
送信

バックグラウンド再生>バックグラウンドモード (watchOS 5.0以降の場合)

「バックグラウンドモード」を選択すればBluetoothのヘッドセット（例えばAir Pods）を使うことができます。

このモード（バックグラウンドモード）では再生中に矢印を使って音量調節と15秒の巻き戻しができます：



起動時に録音オプションは設定画面で設定可能です。このオプションを利用すれば、アプリを起動するだけで（録音ボタンを押さなくても）録音を開始できます：



アプリが停止状態（録音/再生していない状態）のときは、Apple Watchで録音ファイルを左にスワイプして削除することができます。

注意：アプリがバックグラウンドで動作している場合、着信を受けた後は、録音は手動で再開する必要があります（iOS 12.4以降）。

2. Apple WatchをiPhoneのリモコンとして使用する

この状態では、Apple Watchは、iPhoneで動作しているALON Dictaphoneのリモコンのように機能します。Apple Watchを介してiPhoneでの録音/再生/停止の操作ができます。録音を開始するには、アプリのメイン画面で電話のアイコンを選択し（または設定画面で設定：設定>ストレージ>Apple Watch>オフ）、録音ボタンを押します。録音画面は次のようになります：



注意：録音を開始できるのは、iPhoneでアプリがフォアグラウンドで動作している場合のみです（iOS 12.4以降）。

この状態で、iPhoneでアプリのカテゴリへのアクセスを取得できます。
現在のカテゴリを変更することもできます：設定 > 右画面（左にスワイプ）：



1. iPhone で、Apple Watch App を開きます。
2. My Watchタブをタップし、続いてコンプリケーションをタップします。

コンプリケーションを管理するには、「編集」をタップします。終わったら「完了」をタップします。

- ・コンプリケーションを削除するには、マイナスアイコン をタップしてから、「削除」をタップします。
- ・コンプリケーションを追加するには、プラスアイコン をタップします。

コンプリケーションを選択したら、文字盤に追加できます。

注釈：Apple Watch は、長時間のオーディオ録音には、最適ではありません。**20分以上の録音には、不向きです。**長時間の録音を保存することによって、Apple Watch 本体の諸々の作動が遅くなる場合があります。

13. プロバージョンと無料バージョン

プロバージョンがインストールされると、無料バージョンはプロバージョンと同じように動作します。つまり、プロバージョンで利用可能な全てのオプションが無料バージョンで利用

できるようになります。全ての録音トラックは初め無料バージョンに残り、プロバージョンと同じ編集を無料バージョンでできるようになります。しかし、録音トラックを無料バージョンからプロバージョンに移動したい場合には、以下の4つの方法のいずれかで移動できます：

1. 無料バージョンを開く > ツールボタン () > 共有ボタン () > 次の方法で開く… > ALON Dictaphone

2. iTunes (Windows および Mac から Catalina macOS まで) (動画をご覧ください [iTunesから録音記録を取得する](#))

Mac または Windows パソコン上で iTunes を開きます。

iPhone、iPad、iPod touch を付属の USB ケーブルでコンピュータに接続します。

iTunes でデバイスをクリックします。デバイスが見つからない場合の対処法については、[こちらの記事](#)を参照してください。

左側のサイドバーで「ファイル共有」をクリックします。

ALON Dictaphone (ディクタフォン) を選択。

「書類」リストからファイルをドラッグし、コンピュータ上のフォルダまたはウィンドウにドロップすると、それらのファイルがコンピュータにコピーされます。コンピュータにコピーしたいファイルを「書類」リストで選択してから「保存先」をクリックし、そのファイルの保存先のフォルダをコンピュータ上で探してから、「保存先」をクリックする方法もあります。

アプリにレコーディングを追加するには：

フォルダまたはウィンドウから「書類」リストにファイルをドラッグアンドドロップすると、そのファイルがデバイスにコピーされます。

iTunes の「書類」リストで「追加」をクリックして、コンピュータからコピーしたいファイルを指定して、「追加」をクリックする方法もあります。指定したファイルがデバイス上の該当の App にコピーされます。その App が対応しているファイルだけを選択するようにしてください。対応しているファイルの種類については、該当する App のユーザガイドでご確認ください。



最新のmacOSの場合、直接Finderアプリを利用できます。

<https://support.apple.com/ja-jp/HT210598>

3. iCloud経由：

無料バージョンを開く > 設定ボタン () > アップ画面 > iCloud > オン
プロバージョンを開く > 設定ボタン () > アップ画面 > iCloud > オン

4. Dropbox経由:

無料バージョンを開く > 設定ボタン () > アップ画面 > Dropbox設定 > 自動同期 > オン
同期が完了するまで待ちます
プロバージョンを開く > 設定ボタン () > アップ画面 > Dropbox設定 > 自動同期 > オン

App 内課金で拡張機能を購入したけれども、それが表示されない、またはそれを別のデバイスで利用したい場合には、以下の手順をお試しく下さい:

1. デバイスがインターネットに接続していることを確認する。
2. 購入時と同じApple IDを利用していることを確認する。
3. アプリで「設定」を開く。「拡張」タブをタップして、「復元」ボタンをタップする。

14. その他の機能ヒント

コントロールセンターに表示する - コントロールセンターから再生/録音時の一時停止と再開ができるようになります。

アプリ起動時に録音を開始する - アプリがフォアグラウンドのときに、録音ボタンを押さなくても録音を開始します。

他のアプリから録音する - 他のアプリから録音できるようになります。通常（他のアプリが録音トラックを利用しない）の場合、このオプションは無効にしておく方がよいでしょう。

Note: Not all applications can allow recording.

（再生/録音時）**現在アクティブな録音をクリックすると、録音トラックリストの現在アクティブな録音に戻ることができます。**ある録音トラックを選択して、それからまた現在アクティブな録音に戻らなければならない場合に、この機能は便利です。

録音トラック全体を繰り返すために、「設定」（左上のボタン） > リストタブ > リストの再生方法 > トラックループ、を選択します。

録音の特定の部分を繰り返すために、繰り返したい箇所をブックマークして、ブックマークループウィンドウに移動して、このブックマークのチェックボックスにチェックを入れます。それから「再生」ボタンを押します。

録音データを WhatsApp に送信する:

WhatsApp に録音データを送信するには次の操作を行います:

1. 送信したい録音データを選択。
2. 送信したい録音データの列の中にあるシェアボタンをクリック
3. 次の方法で開く…を選択

4. WhatsApp を選択

あるいは

1. 送信したい録音データを選択。
2. ウィンドウの左上隅にあるツールボタンを選択（左から 2 番目のボタン）
3. ツールバーの中からシェアボタンを選択。
4. 次の方法で開く…を選択
5. WhatsApp を選択

これまで使っていた iOS デバイスから新しい iOS デバイスに音声録音データを移す：
1番目の項目以外は[13 章](#)で説明した方法と全く同じです。

他のアプリケーションからオーディオ録音をインポートします：

1. 他のアプリケーションで録音したオーディオを 「共有」 / 「・・・で開く 」 コマンドを選択します。
2. アプリのリストからALON Dictaphone (Dictaphone) を選択します。

自分の録音ファイルを手に入れるには、以下の方法を行います：

無料バージョンの録音ファイルはiTunes経由で入手できます。（動画をご覧ください。[動画をご覧くださいiTunesから録音記録を取得する](#)）(Windows および Mac から Catalina macOS まで)：

録音ファイルは “ALON Dictaphone” (“ディクタフォン”) ディレクトリに保存されています。以下の手順を実施してください：

1. Mac または Windows パソコン上で iTunes を開きます。
2. iPhone、iPad、iPod touch を付属の USB ケーブルでコンピュータに接続します。
3. iTunes でデバイスをクリックします。デバイスが見つからない場合の対処法については、[こちらの記事](#)を参照してください。
4. 左側のサイドバーで「ファイル共有」をクリックします。
 5. ALON Dictaphone (ディクタフォン) を選択
6. 「書類」リストからファイルをドラッグし、コンピュータ上のフォルダまたはウインドウにドロップすると、それらのファイルがコンピュータにコピーされます。
コンピュータにコピーしたいファイルを「書類」リストで選択してから「保存先」をクリックし、そのファイルの保存先のフォルダをコンピュータ上で探してから、「保存先」をクリックする方法もあります。

最新のmacOSの場合、直接Finderアプリを利用できます。

<https://support.apple.com/ja-jp/HT210598>

プロバージョン（または無料バージョン + App 内課金 “オーディオメモを共有する”）の録音ファイルは以下の方法で入手可能です：

1. Eメール

通常、Eメールに添付可能な容量は10MBまでです。それを超える場合には、メールは複数に分割されるでしょう。その場合には、Mac向けの MacHachaやPC向けのHJSplitなどのアーカイブツールを利用して、分割されたファイルを結合してMP3やWAVファイルに復元する必要があります。分割メールのサイズは、設定（左上のボタン） > アップタブ > Eメール設定、で設定可能です。設定で「分割なし」を選択すると、どのトラックでもEメールに添付できる上に複数のレターを一度に送信できます。しかし、この場合全てのレターの大きさの合計、あるいは一つのレターの大きさがサーバに許容されるものより大きい場合、エラーが発生する可能性があります

2. iTunes (最新のmacOSでFinderアプリを利用する場合):
上をご確認ください。

3. FTP経由:

以下のフィールドに記入をしてください。設定 > アップタブ:

1. サーバ名
2. ユーザー名
3. パスワード
4. ディレクトリ (オプション)

4. HTTP経由

この場合、ご利用のノートパソコンと同じネットワーク上のWiFiに接続している必要があります。

5. Dropbox経由

6. Google Drive経由

7. OneDrive経由

8. SoundCloud経由

9. Box経由

10. Evernote経由

11. WebDAV経由

12. SharePoint経由



13. iCloud


MacではFinderアプリを使って、iCloud Drive上の録音ファイルにアクセスできます：
Finder > iCloud Drive > ALON Dictaphone (ディクタフォン)。
ウィンドウズの場合は、iCloud Driveをパソコンにインストールできます：
<https://support.apple.com/ja-jp/HT204283>

14. AirDrop

15. アプリ間でのファイルの送信は、ディクタフォン アプリの「次の方法で開く…」を選択して、「ALON Dictaphone」を選択してALON Dictaphone アプリ内の必要な録音ファイルを送信します。

注意：“Dropbox/Google Drive/OneDrive/SoundCloud/Box/Evernote/WebDAV/SharePoint”を利用する場合には、有効なアカウントが既に存在していることが前提です。

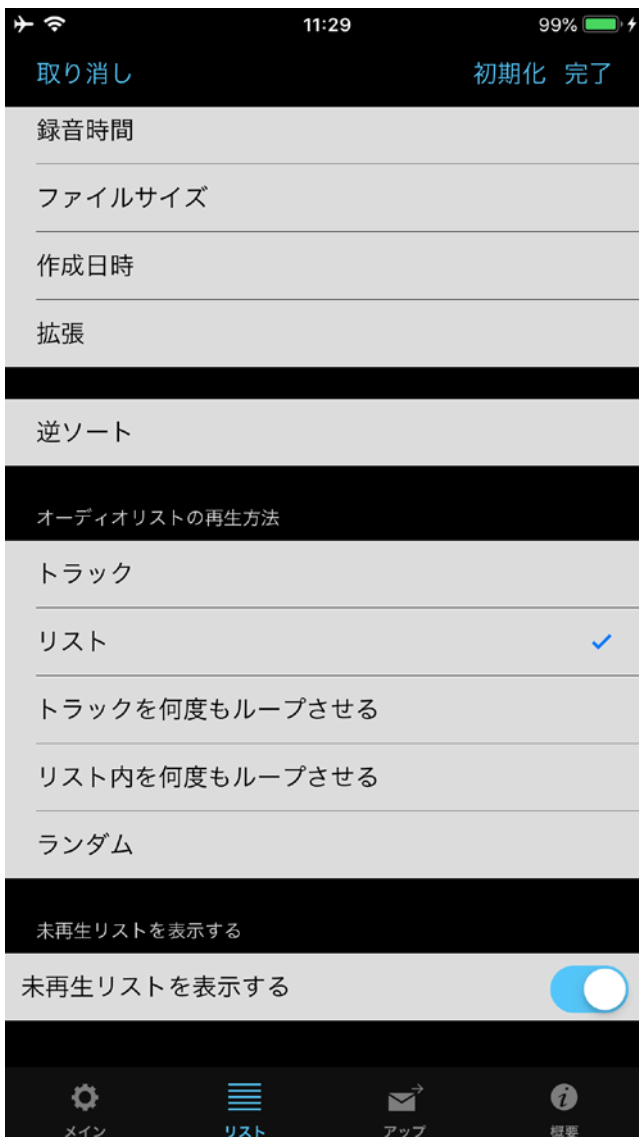
プロバージョンには、“設定 () > 拡張”から移行できます。プロバージョンの価格はおおよそ5\$ (530円)です。あるいは、「設定 () > 拡張 > オーディオメモを共有する」のApp 内課金経由で共有オプションのみを入手することも可能です。

“オーディオメモを共有する”の価格はおおよそ2\$ (210円)です。設定 () ボタンは停止状態 (再生/録音中ではない状態) のときに使用可能です。

プロバージョンがインストールされると、無料バージョンはプロバージョンと同じように動作します、つまりプロバージョンで利用可能な全てのオプションが無料バージョンで利用できるようになります。

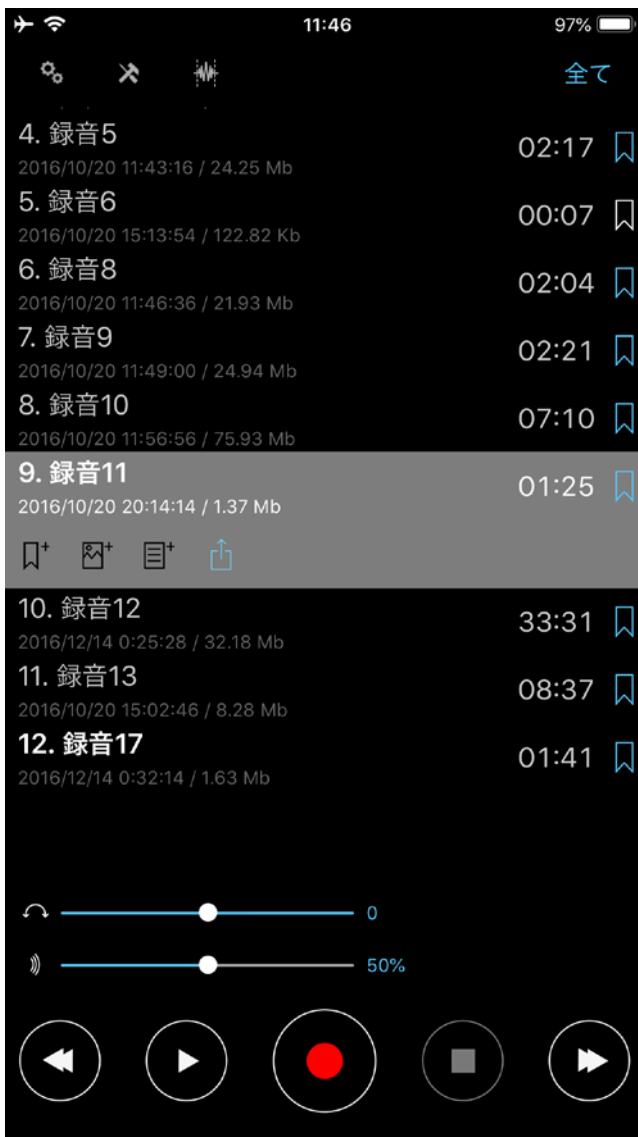
15. 未再生リストの表示.

未再生リストを表示するを有効にすると、まだ再生されていない録音ファイルを一覧表示することができます。このオプションはアプリの設定画面で選択できます：



このオプションによって、現在の録音ファイルが送信済みであるかどうかを確認することができます。

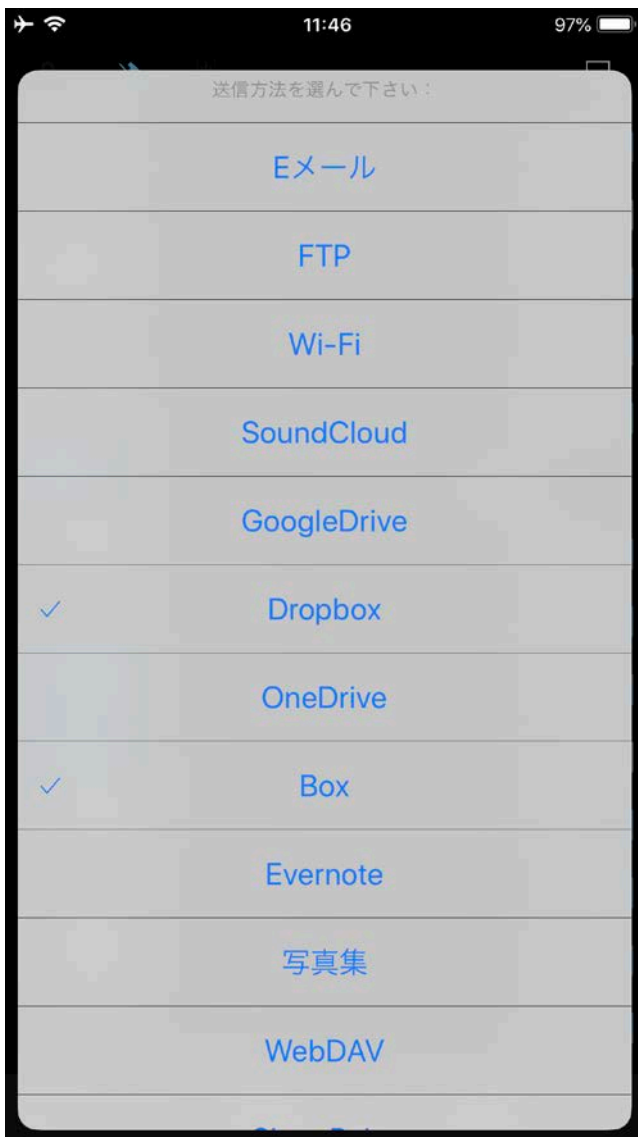
a. 全ての送信済みの録音ファイルには、欄内に色付きの送信ボタンが表示されます：



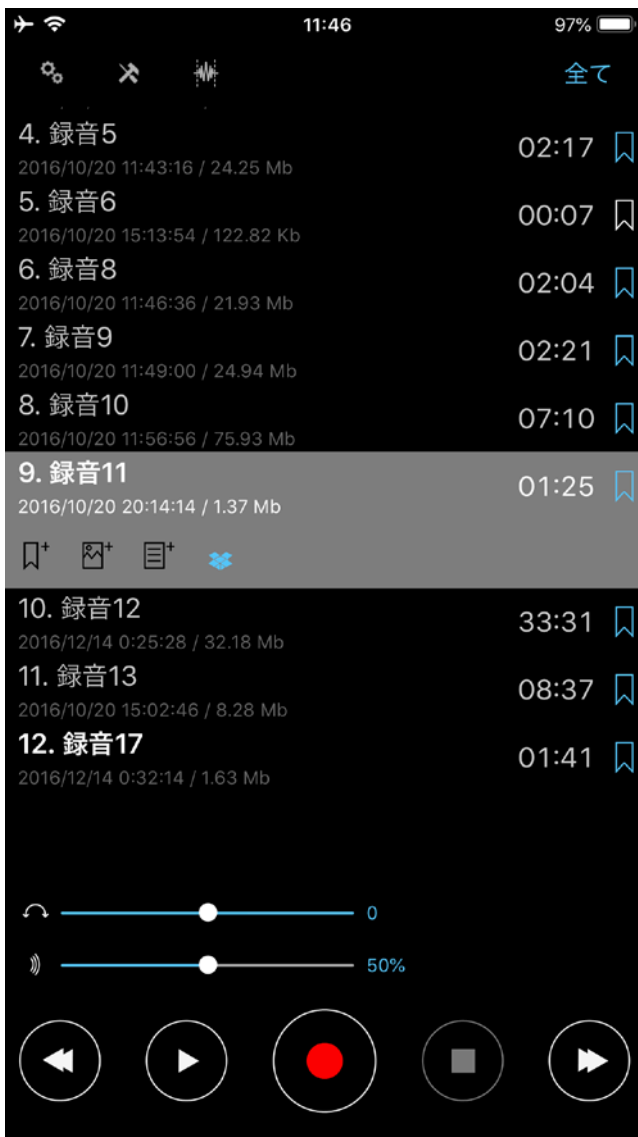
b. ナビゲーションペインの左から2番目にある「ツール」ボタンを選択すると、全ての送信済み録音ファイルが青くハイライト表示されます：



c. 録音ファイルの欄内またはツール画面内にある「送信」ボタンをクリックすると（送信方法に特定の方法を設定していない場合）、「送信」画面が表示されて特定の録音ファイルがどの方法で送信されたのかを確認することができます：



d. 送信方法に特定の方法を設定している場合は、録音ファイルが送信されたかどうかは、特定の送信方法（例：ドロップボックス）を表す送信ボタンのアイコンに色が付くことで確認できます：



16. 音声モニタリング

このオプションによって、ヘッドセットで録音中の音声をリアルタイムで聴くことができます。

このオプションを有効にするには、設定で「音声モニタリング」を選択します：



AirPodsなどのBluetoothヘッドホン経由で音声モニタリングと録音をするには、Bluetoothオプションを有効にする必要があります。

Bluetoothヘッドホン経由で音声モニタリングをして、別のマイク（例：内蔵マイク）から録音をするには、「Bluetooth接続機器でモニタリング」を有効にしてください。

注意：録音入力複数あり、音声モニタリングにBluetoothヘッドホンを使う必要がある場合は、必ずBluetoothヘッドホンを最後に接続してください。

17. VoiceOver

VoiceOverローターを使って巻き戻す方法

再生状態：

1. 設定で巻き戻し時間（3、5、10…）を設定した場合のみ、再生で巻き戻しオプションを利用することができます：アプリケーション設定（ナビゲーションバーの左上のボタン）＞ 早送り/巻き戻し（秒単位）
2. ローターで、再生中に巻き戻しオプションを選択します。
3. 指を上方向または下方向に動かして音声を巻き戻します。

録音状態：

1. 設定で巻き戻し時間（3、5、10…）を設定した場合のみ、再生で巻き戻しオプションを利用することができます：アプリケーション設定（ナビゲーションバーの左上のボタン）＞ 録音の早送り/巻き戻し（秒単位）
2. ローターで、録音の一時停止中に巻き戻しオプションを選択します。
3. 指を上方向または下方向に動かして音声を巻き戻します。

Magic Tap（2本指でダブルタップ）

Magic Tapは、再生/一時停止に利用できません（デフォルト状態です）。また、このオプションを設定画面で設定した場合は、録音/一時停止に利用できません：アプリケーション設定（ナビゲーションバーの左上のボタン）＞ Magic Tap（VoiceOver）＞ 録音開始＞ オン